

三豊市観光協会  
会長  
真鍋 雅彦さん  
(詫間町)

特集

# 明日の観光を どう開く

瀬戸内海の多島美や心温まるおもてなし、新鮮で豊富な海の幸・山の幸など、魅力的な観光資源が三豊市内にはたくさんあります。しかし、その資源が生かされていきらないのが現状では……。秋には瀬戸内国際芸術祭2013が栗島で開催され、多くの来訪者が予想されます。今後、みとよの観光はどう歩んでいくのか、4月に新しく任命された観光大使の皆さんが、市観光協会真鍋会長に観光振興への思いを聞きました。



が今のところは、非常に好評を得ています。誘客活動につなげていくためのポイントを押さえたいんじゃないかと思っています。

**活性化なくして観光なし**

**Q** 今の三豊の観光をどのようにしたいですか

**A** 私自身の思いは、観光の原点である地域経済の活性化が目的なんですよね。地域経済の活性化を図るために観光ってあるんですよ。活性化なくして観光というのはあり得ない。活性化するかしないかが観光が成功するかしないかだと思います。地域の潤いをもたらすことを常に考えていますね。

**Q** さまざまなイベントに参加する浦島太郎さんや観光大使の

**活動や役割は**

**A** 広域観光を目指す中で、浦島太郎さんと観光大使は欠かせない存在です。市外に向けてのイベントに参加したり、阪神方面など県外に出て、三豊の観光をアピールしてほしいです。

**Q** 近隣地や他の団体との連携は

**A** 観光を三豊市単独でやるのは難しいです。県の観光協会や中西讃地域などと積極的に情報交換しながら連携をとってやっていくことが絶対に必要だと思います。

他の団体との連携ですが、観光ってソフト面とハード面と両方あるんですよね。ソフト面については、観光協会が広報とか誘客とか積極的に出てお客さんを呼び込みます。これは観光協会の仕事です。

**近隣観光地と連携した  
広域観光を**

**Q** 三豊の観光の現状と課題は

**A** 観光のスタイルは、大型バスによる観光とマイカーによる観光の2種類あるかと思っています。大型バスによる観光は、受け入れ能力などを考えると三豊市単独では難しく、広域観光に頼らざるを得ないんですよね。近隣観光地との連携が絶対だろうと。これを考えると、近隣地での誘致活動、広報活動が大切ですね。

では、マイカーによる観光で人が多く来ているのかというとあまり来ていないですね。来て活性化ができていくかというと、できていないのが現状です。それができるような仕組みをいかに作っていくか。その点が課題として挙げられますね。

**Q** 観光協会が作ったポスターが好評と聞いていますが

**A** 観光ポスターは1,000部ほど作って配布しました。ポスターは、どこに貼るかがポイント。いいポスターを作っても市内で貼っ

その後、ハード面の充実については、観光の基本である宿泊、食事あるいは土産物なんかを地域の関係団体みんなが協力して受けていって相乗効果を上げていく。さらに集客効果を上げるということが基本だと思います。それぞれの役割分担をきちんと認識して、行動することが大切でしょう。ハード面では新しい建物が必要という意見もありますが、訪れる人が満足するように、どのようにおもてなしすればいいかという気持ちが大切。手間をかければかけるほどお客さんは喜ぶ、手抜きをすればするほどお客さんは満足してもら



たんではしょうがない。市外でど

う貼るか、貼るルートはどうするか、誰が協力するか、貼っても1週間しか貼ってこないなど短期間の勝負になることも多くて厳しい部分があるんです。ただ、紙を使って訴えるのは非常に大事です。

「あのポスターいいね、くれんかな」という声をよくよく耳にしますが、市内の人が多くんですよ。市外の人から言ってもらえないとね。市外の人にいかアピールするか。今回は企業とか行政の駅、ふるさと会に協力をお願いしてポスターを貼ってもらいました。この結果がどう出るかです。



▲紫雲山から見る美しい瀬戸内海の多島美をみごとに表現

えないんですよ。

**積極的にアプローチし  
三豊に来る動機付けを**

**Q** 三豊の魅力を発信するには

**A** 情報発信には印刷物やホームページ、フェイスブックなどのタイムリーに情報発信できるものがあるんですが、これってお客さんが見て、三豊に来ようかという気持ちにさせることはできるんですよ。しかし、それはあくまで感覚的に訴えるものであって、実際に来てもらうためにどうするかが大仕事なんです。そのためには、近隣地を訪れている人への直接的な広報活動が必要で、それには近隣観光地との連携を密にしなければなりません。

観光協会が作成したガイドブックはとても人気があるんですが、これを作ったのは合併して旧7町が互いを知るという目的で作ったので、市外には出てないんです。これを市外に向けて出していくと考えるといます。今、瀬戸内国際芸術祭が開催されていますが、他の開催地で浦島太郎さんや観光大使の皆さんに配布してもらって



## 仁尾の魅力を発信するため 地域が結集！

仁尾まちなみ創造協議会  
会長 菅 磯夫さん(仁尾町)

明治や大正・昭和初期の商家や町家が数多く残り、風情ある町並みを形成している仁尾町。市の財産の一つである仁尾の町並みを再生・活性化するため、地域が結集。平成24年12月19日に市民主導による協議会を設立し、動き始めた菅会長にその思いを聞きました。

昔の風情が今なお残る仁尾の町並みを創造的によみがえらせたという思いがあったんですが、偶然本屋で見かけたアレックス・カーさんの本を読んで、この人に三豊で講演してもらおうと思い、連絡をしたんです。来るだけはいかんからと仁尾の町並みを見てもらおうと、アレックス・カーさんは旧家の一つ「松賀屋」をはじめとする町並みをとても気に入ってくれて「これは残さないかん。ぜひ一緒に頑張ってくれんやろか」と言われたのが始まりです。

活動の計画としては、第1ステップとして中心的位置づけにある「松賀屋」を再生して、それから広げていこうと考えています。

今は会員26人で月に1回は検討会を開いたり、施設見学を行っています。自分が住んでいる地元の良さを再認識してもらいたいという思いをメンバーみんなが持っています。町並み再生についてはいろんな意見を耳にしますし、民間主導で正直たいへんな部分も多いです。でもやってみないと分からないことですからね。ある程度覚悟して、後ろを向かずに前に進んでいかないといけないんです。協議会の力は限られています。メンバーの中には若くていい意見を持った人がたくさんいます。仁尾が好きなんだという思いはみんな強いですよ。

私たちも動き出したばかりですが、ほかでもこのような動きがあれば、ぜひ一緒に手を携えてやっていきたいですね。



全国各地で古民家再生プロジェクトを手がけ、日本の美しい暮らしを守り、高めるための活動を展開しているアレックス・カーさん。彼が再生した徳島県祖谷にあるかやぶきの古民家を協議会の皆さんが見学

なことです。市内には魅力ある観光資源が多くありますが、それに対する関心が薄い気がします。祭りでも何でも地域力が基本です。で、地域の皆さんが協力して、立ち上げていくことはすばらしいことです。地元の魅力発信に喜びを感じて、おもてなしの心を持って、みんなで迎え入れるんだという気持ちでやれば、必ず成功すると思います。地元の人との会話が生む

**Q** 10月5日(土)から11月4日(月)まで瀬戸内国際芸術祭が栗島で行われます。来たお客さんにどれだけアプローチできるかが鍵ですね。栗島に行くまでの間でどのような観光協会で、マリノウエーブ周辺など一つの場所で三豊のすべてを味わうことのできるようなマルシェみたいなものを開催して、三豊をよく知ってもらおうという試みを考えています。三豊の魅力を発信できるものはほとんど発信し

ていきます。瀬戸内国際芸術祭の開催前からさまざまな展開を図っていこうと思っています。終了後は、成功例や反省点を十分に協議して、広域観光の中で売り込んでいけるよう一丸となって頑張っていきたいと思います。

▼問い合わせ  
市観光協会 ☎56・9121

**Q** 市内の観光資源をどう生かしていこうと考えてますか  
**A** 常々考えているのは、三豊にまた来ようかと思ってももらえるにはどうすればいいか。日常の空間ではおもしろくない、非日常の空間を提供することがいいんじゃないかと考えています。生活する中で得られるものでなくて、非日常を味わってもらえるのが効果としては一番あるのではないのでしょうか。ビール工場の見学なんかは人気がありますが、飲んで食べるだけでなく、工場見学を兼ねて体験型として売り出している。そういうのも一つの形です。非日常を基本にして、体感してもらえようかなもの

**Q** 仁尾では市民主導の協議会が設立するなど、地域が結集して魅力を発信する動きが出ていますか  
**A** 観光産業は、行政がするものではないと思っています。基本的には民間が立ち上げて、思いや心の高ぶりによって地域を盛り上げていくことが絶対に一番大切

持って帰って、後三豊へ訪れてもらえるアプローチになるかと思っています。どのよう



が重要です。そういった情報収集を行うことも観光協会の役割だと思っています。

### 非日常の空間を提供

**Q** 非日常というのは、三豊ではどんな場所で味わえますか  
**A** 人によって非日常と感

じるものは違うと思いますが、普段うどんを食べたり、コーヒーを飲んだりしますが、例えば紫雲山からの絶景を見ながら食べたり、飲んだりするのは、非日常を味わえる一つだと思います。それをどう生み出していくか、それがお客さんの満足度の向上につながります。

### 思いや高ぶりにより 地域を盛り上げる

## 「みとよ観光大使」が決定 わたしたちが4月から2年間三豊の魅力をPRします！



高橋 舞さん(仁尾町)

**三豊の好きな場所**  
仁尾の夕日です。七宝山から見る仁尾は、とても美しく、瀬戸内のナポリが一望できますよ

**PRしていきたいこと**  
取得した栄養士と野菜ソムリエの資格を生かして、農産物などのよさを広くPRしていきたいです



古市 麻衣子さん(高瀬町)

**抱負**  
小さい頃から生まれ育った大好きな三豊の良さを、自慢の笑顔と持ち前の明るさで伝えていきたいです

**大使としてやりたいこと**  
乙姫さんの衣装で、市の歌『七宝の風』に合わせて得意のダンスを披露したいです



眞鍋 ななこさん(詫間町)

**三豊の好きな場所**  
かわいいプイプイ人形がお出迎えてくれる栗島。たった15分の船の旅で日常を忘れ、ゼロにしてくれる場所です

**抱負**  
多くの人に「三豊市の感幸(かんこう)」を発信できるよう精いっぱい頑張ります